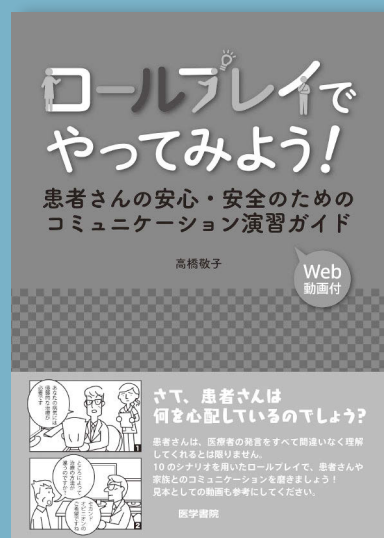


書評

ロールプレイで
やってみよう!

患者さんの安心・安全のための
コミュニケーション演習ガイド
[Web 動画付]



- 著 高橋敬子
- 定価 2750 円 (本体 2500 円 + 税)
- 判型 A5 判
- 頁数 104
- 発行 医学書院

評者

昭和大学保健医療学部看護学科 准教授／
昭和大学統括看護部 看護次長

大崎千恵子

医療者の「あたりまえ」が
患者・家族にはそうでない

私たち看護職者は、あらゆる場面で患者さんに最も近い存在です。対人援助職として「相手の立場に立ち、共感的に理解する」ことを基本に、日常業務に従事しています。しかし、このようなコミュニケーションの基本を分かっているにもかかわらず、苦い思いをした方もいらっしゃるのではないのでしょうか。医療者にだけ分かる表現は、安心につながることもあれば、心配や不安を助長させ、誤解に発展することもあります。

省察を通して「あたりまえ」を
変えるきっかけに

本書は、医療機関で働く全ての人に向けた、コミュニケーション訓練を目的とした実践的なロールプレイ集です。兵庫医科大学病院で全ての医療者を対象に行われている研修内容を紹介しています。模擬患者によるロールプレイングを通して、患者さんの安心や安全がいかに私たちのコミュニケーションに裏付けられているかを省察できるように構成され、患者さんが戸惑いがちな状況がシナリオに落とし込まれています。このような対話の場面を振り返ることで、「あれ? おや?」と気づき、参加者との討議を通して自分の傾向を確認し、行動を変えていく手助けとなります。

本書で紹介されている 10 の場面に共通していることは、医療者にとっての「あたりまえ」「おきまり」が患者さんや家族にとっては困惑や不安になりうるということです。例えば、あるシナリオでは、救急搬送された患者さんへの面会制限に困惑する家族との対話を切り取っています。医療者が最善の方法として実施している判断（ここでは面会制限）を、時に家族は「最悪のこと」として受け止めます。臨床現場での患者さんや家族との対話は、数分単位のやりとりの繰り返

しです。しかし、短い時間の出来事であるからこそ、そこで信頼を得るか、不安を助長させるかは、私たちのコミュニケーション次第です。

安心・安全のための
コミュニケーションが「できる」

コミュニケーション技術は、その名の通り「技術」であり、自然に身に付くものではありません。厚生労働省による「新人看護職員研修ガイドライン」では、コミュニケーションは看護技術を支える要素として位置付けられています。技術の修得には意図的な練習を繰り返すことが必要です。特にコミュニケーションでは、目に見えない相手の気持ちを取り扱うという難しさがあります。職場で教育指導に携わる多くの看護管理者の方は、「知っている」だけでは「できる」に至らないことを実感されていると思います。

本書は、臨床の医療職を対象に、安心・安全のためのコミュニケーションが「できる」ようになるための演習ガイドです。演習を企画するための準備や模擬患者の育成、シナリオの作成方法までが丁寧に説明されています。付録としてシナリオごとに Web 動画が付いていますが、これはイメージを伝えるためであり、施設の状況に合わせながら演習を実施できるところが特徴です。また、対面での演習が難しい昨今の事情を踏まえて、Web 会議システムを利用した方法も紹介されています。コンパクトなサイズですが、内容は至れり尽くせりで、全ての臨床看護職者に一度は手に取ってほしい書籍です。

最後に著者の言葉を紹介します。
「模擬患者とともに学習するロールプレイ演習は、手技をスキルスラボで修練することと同じ意義がある」